

**Oracle® Server X6-2L Oracle Solaris オペ
レーティングシステムインストールガイド**



Part No: E73699-01
2016 年 4 月

Part No: E73699-01

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	7
製品ドキュメントライブラリ	7
フィードバック	7
 Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて	9
Oracle Solaris のインストールのタスクマップ	9
サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム	10
Oracle Solaris のインストールオプション	11
単一サーバーへのインストール方法	12
Oracle Solaris の手動インストール	12
 Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの準備	13
コンソール用ディスプレイの選択	13
コンソール用ディスプレイのオプション	14
▼ ローカルコンソールを設定する	14
▼ リモートコンソールを設定する	15
ブート環境の準備	16
▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する	16
▼ ブートモードを設定する	19
ブートメディアオプションの選択	22
ブートメディアオプションの要件	22
▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する	23
▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する	23
インストール先の選択	24
インストール先のオプション	25
▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する	25
▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する	26
RAID の構成	26

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール	27
開始する前に	27
単一システムへの Oracle Solaris の手動インストール	28
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Solaris をインストールする	29
▼ PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris をインストールす る	32
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール後のタスク	36
Oracle Solaris の更新	36
Oracle Solaris リソースを管理する	37
 ネットワークインタフェースの構成	 39
NIC コネクタ	39
 索引	 41

このドキュメントの使用方法

- **概要** – このインストールガイドでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順と、Oracle Server X6-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、認定サービスプロバイダ、およびユーザー。
- **必要な知識** – オペレーティングシステムのインストール経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/x6-2l/docs> で入手できます。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて

このセクションでは、サーバー に新しい Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) をインストールするプロセスの概要を示します。

説明	リンク
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順を確認します。	9 ページの「Oracle Solaris のインストールのタスクマップ」
サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムを確認します。	10 ページの「サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム」
オペレーティングシステムのインストールオプションを確認します。	11 ページの「Oracle Solaris のインストールオプション」

関連情報

- [27 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」](#)

Oracle Solaris のインストールのタスクマップ

次の表では、新規インストールで Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールするための大まかな手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	プロダクトノートを確認します。	『Oracle Server X6-2L プロダクトノート』 (http://www.oracle.com/goto/x6-2l/docs)
2.	サーバーハードウェアを設置します。	■ 『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』 の「サーバーのラックへの設置」 ■ 『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』 の「サーバーのケーブル接続と電源の投入」

手順	説明	リンク
3.	Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	■ 『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』 の 「Oracle ILOM への接続」
4.	サーバーでサポートされている Oracle Solaris のバージョンを確認します。	10 ページの「サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム」
5.	Oracle Solaris インストールメディアを入手します。	インストールメディアは、次の場所でダウンロードまたは注文できます。 http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/downloads/index.html
6.	インストールの実行に使用するコンソール、ブートメディア、インストール先を設定します。	■ 13 ページの「コンソール用ディスプレイの選択」 ■ 22 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 24 ページの「インストール先の選択」
7.	BIOS を確認し、必要に応じて構成します。	16 ページの「ブート環境の準備」
8.	Oracle Solaris OS をインストールします。	27 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」
9.	インストール後のタスクを実行します (該当する場合)。	36 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール後のタスク」

Oracle Solaris OS 11.3 の追加ドキュメントは、次の場所で入手可能です。

http://docs.oracle.com/cd/E53394_01/index.html

関連情報

- 13 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの準備」

サポートされる Oracle Solaris オペレーティングシステム

サーバー では、次の Oracle Solaris オペレーティングシステムソフトウェアがサポートされます。

Oracle Solaris OS	エディション
Oracle Solaris 11	リリース 11.3 (SRU5 適用済み)

注記 - Oracle Solaris オペレーティングシステムの最新のすべての要件については、<http://www.oracle.com/goto/x6-2l/docs> にある最新バージョンの『Oracle Server X6-2L プロダクトノート』を参照してください。

サーバーに Oracle Solaris OS がインストールされているが、それを使用しない場合は、サポートされているその他の任意のオペレーティングシステムまたは仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールできます。

サーバーによってサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、最新バージョンの『Oracle Server X6-2 プロダクトノート』(<http://www.oracle.com/goto/x6-21/docs>)を参照してください。

Oracle Solaris ハードウェア互換リスト (HCL) には、Oracle ハードウェアでサポートされている最新のオペレーティングシステムバージョンが示されています。サーバーでサポートされている最新の Oracle Solaris バージョンを見つけるには、次のサイトにアクセスして、使用しているサーバーのモデル番号を使用して検索してください。

<http://www.oracle.com/webfolder/technetwork/hcl/index.html>。

関連情報

- [27 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」](#)

Oracle Solaris のインストールオプション

Oracle Solaris OS を単一のサーバーにインストールするか複数のサーバーにインストールするかを選択できます。

このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用すると、1 つの OS を複数のサーバーにインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html にアクセスしてください。
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。 ■ ローカル: サーバー上でローカルに OS のインストールを実行します。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: リモートの場所から OS のインストールを実行します。このオプションは、Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、OS の手動インストールを実行します。

単一サーバーへの OS のインストール方法の詳細は、次を参照してください。

- [12 ページの「単一サーバーへのインストール方法」](#)

単一サーバーへのインストール方法

Oracle Solaris インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ニーズにもっとも適したローカルまたはリモートの OS インストールを決定します。

注記 - Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール要件に関する最新情報については、<http://www.oracle.com/goto/x6-2l/docs> にある『Oracle Server X6-2L プロダクトノート』を参照してください。

メディアの提供方法	その他の要件
DVD ドライブを使用したローカル OS インストール —サーバーに接続された物理 DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB DVD ドライブまたはフラッシュドライブ、および Oracle Solaris 配布メディア。ローカルインストールの場合は、サーバーに直接接続されたローカルの DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを使用してインストールメディアを提供します。詳細は、 12 ページの「Oracle Solaris の手動インストール」 を参照してください。
DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用したりリモートからの OS インストール —Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたりリモートシステム、接続された物理 DVD またはフラッシュドライブ、Oracle Solaris 配布メディア、およびサーバーの管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセス。リモートインストールの場合は、リモートの DVD、USB フラッシュドライブ、または DVD ISO イメージを使用してインストールメディアを提供します。詳細は、 12 ページの「Oracle Solaris の手動インストール」 を参照してください。
PXE イメージ —サーバー PXE (Preboot eXecution Environment) を使用して、ネットワークインタフェースから Oracle Solaris インストーラを起動します。	Oracle Solaris のインストールイメージを含む PXE サーバー。詳細は、 http://docs.oracle.com/cd/E53394_01/index.html にある Oracle Solaris ドキュメントを参照してください。

Oracle Solaris の手動インストール

この方法では、Oracle Solaris 配布メディアをローカルまたはリモートの DVD ドライブ、USB デバイス、または DVD イメージで提供します。Oracle Solaris をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
コンソール用ディスプレイのオプションとそれらの設定方法を確認します。	13 ページの「コンソール用ディスプレイの選択」
BIOS を最適なデフォルト値に設定します。	16 ページの「ブート環境の準備」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法を確認します。	22 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法を確認します。	24 ページの「インストール先の選択」
サーバーで RAID を構成します。	26 ページの「RAID の構成」

関連情報

- [28 ページの「単一システムへの Oracle Solaris の手動インストール」](#)

コンソール用ディスプレイの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- [14 ページの「コンソール用ディスプレイのオプション」](#)
- [14 ページの「ローカルコンソールを設定する」](#)
- [15 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)

コンソール用ディスプレイのオプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
この端末は、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続された端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) に直接接続された VGA モニターと、4 つの外部 USB コネクタのいずれかに接続された USB キーボードおよび USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. 端末をシリアル管理 (SER MGT) ポートに直接接続するか、または端末エミュレータ経由で接続します。
端末デバイスを、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビット (9600/8-N-1) に設定します。
2. 端末デバイスで **Enter** を押し、シリアルコンソールと **Oracle ILOM SP** との接続を作成します。
Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。
3. **Oracle ILOM** にログインします。ログインプロンプトで、**Oracle ILOM** のユーザー名とパスワードを入力します。
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は **root** であり、パスワードは **changeme** です。
Oracle ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。
4. ホストコンソールに接続します。CLI プロンプトで、次のように入力します。
-> **start /HOST/console**
シリアル管理ポート出力は、サーバーのホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>)

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。

コマンド行インタフェース (CLI) または Web インタフェースを使用して Oracle ILOM にリモートでログインするには、サーバー SP の IP アドレスを知っている必要があります。サーバーの IP アドレスを確認する手順については、『[Oracle Server X6-2L 設置ガイド](#)』の「[Oracle ILOM を使用してサービスプロセッサのネットワーク設定を変更する](#)」を参照してください。

2. Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は手順 3 に進みます。

- a. サーバーのネットワーク管理ポート (NET MGT) へのネットワークアクセスを備えたリモートシステム上で、Web ブラウザを開きます。ブラウザのアドレスバーにサーバー SP の IP アドレスを入力し、Enter を押します。

Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。

- b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。ログインプロンプトで、Oracle ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。

デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は root であり、デフォルトのパスワードは changeme です。

Oracle ILOM の「Summary Information」ページが表示されます。

- c. 「Actions」パネルで、「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。

「Oracle ILOM Remote System Console Plus」画面が表示されます。

詳細は、『[Oracle Server X6-2L 設置ガイド](#)』の「[Oracle ILOM を使用してホストサーバーデスクトップまたはストレージデバイスをリダイレクトする](#)」を参照してください。

3. SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。

- a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します。次のように入力します。

```
ssh root@hostname
```

ここで、*hostname* にはサーバー SP の DNS 名または IP アドレスを指定できます。

Oracle ILOM のログインプロンプトが表示されます。

- b. **Oracle ILOM にログインします。ログインプロンプトで、Oracle ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。**
デフォルトの Oracle ILOM ユーザー名は *root* であり、パスワードは *changeme* です。
Oracle ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。
- c. シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。CLI プロンプトで、次のように入力します。
-> **start /HOST/console**

関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2 のドキュメントライブラリ (<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>)

ブート環境の準備

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする前に、Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) 設定が、実行する予定のインストールの種類をサポートするように構成されていることを確認するようにしてください。

次のトピックでは、インストールをサポートするように UEFI を構成する方法について具体的に説明しています。

- [16 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [19 ページの「ブートモードを設定する」](#)

ブートプロパティの変更の詳細については、『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindiag/docs>) を参照してください。

▼ UEFI の最適なデフォルト値を確認する

注記 - サーバーが新しく設置され、オペレーティングシステムがはじめてインストールされる場合は、おそらく UEFI がその最適なデフォルト設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて UEFI 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。最適なデフォルト値を設定することで、適切であると分かっている構成でサーバーが効率的に動作するようになります。最適なデフォルト値は『Oracle Server X6-2L サービスマニュアル』で確認できます。

BIOS 設定ユーティリティで F2 キーを使用して行なった変更はすべて、次にそれを変更するまで保持されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集するだけでなく、BIOS の起動中に F8 を使用して一時ブートデバイスを指定することもできます。F8 を使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスからブートしたあとは、F2 キーを使用して指定した常時ブートデバイスが有効になります。

開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

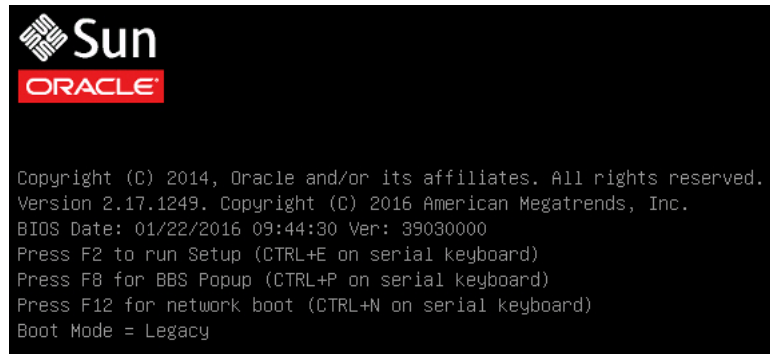
- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) またはソリッドステートドライブ (SSD) が搭載されていること。
- HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられていること。手順については、『Oracle Server X6-2L サービスマニュアル』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されていること。詳細は、13 ページの「コンソール用ディスプレイの選択」を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには、次のいずれかを行います。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

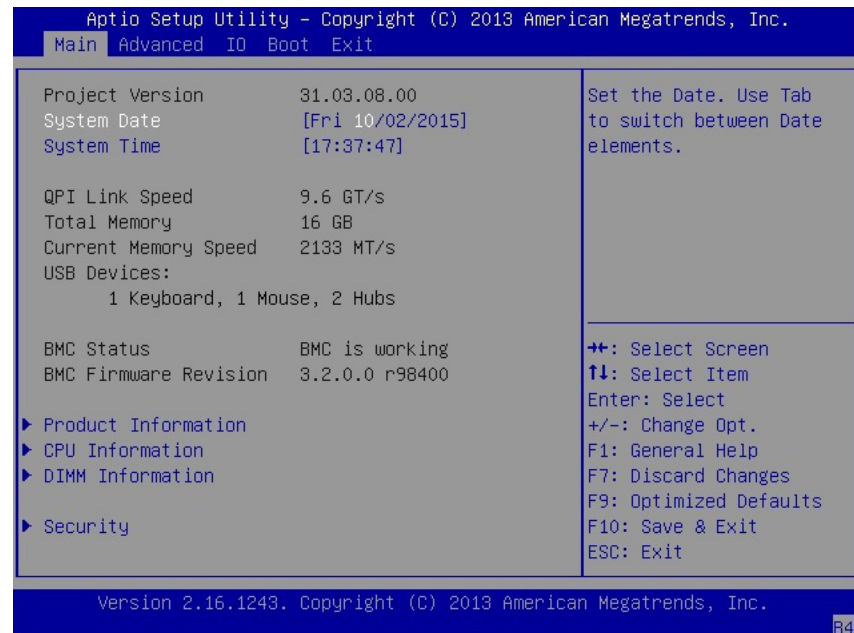
サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、F2 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

[Setup Selected] およびブートモード (レガシーまたは UEFI) が BIOS 画面の最下部に表示されたあと、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



3. **F9** キーを押して、最適なデフォルト設定を自動的にロードします。
「OK」を選択してこの操作を続行するか、「Cancel」を選択してこの操作を取り消すよう求めるメッセージが表示されます。
4. メッセージの「ok」を強調表示して、**Enter** を押します。
5. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。
あるいは、「Exit」メニューで「Save Changes and Exit」を選択することもできます。

▼ ブートモードを設定する

サーバー UEFI ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI の両方のブートモードをサポートします。デフォルトでは、レガシー BIOS ブートモードが有効になっています。Oracle Solaris 11.3 ではレガシー BIOS と UEFI の両方がサポートされるため、OS

のインストールを実行する前に、ブートモードをレガシー BIOS に設定するか UEFI に設定するかのオプションがあります。

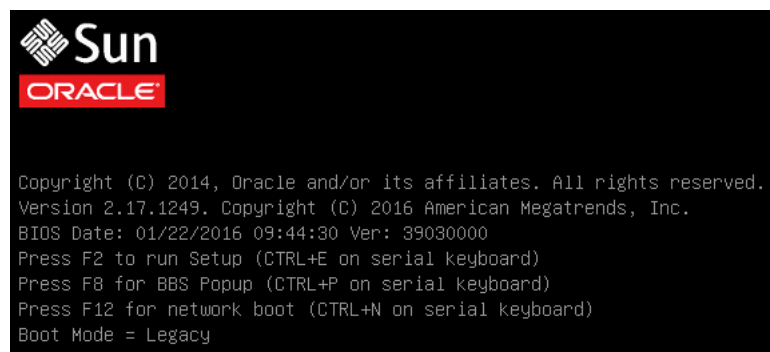
注記 - Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールしたあとで、レガシー BIOS ブートモードから UEFI ブートモード (またはその逆) に切り替えることにした場合、すべてのパーティションを削除して、オペレーティングシステムを再インストールする必要があります。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには、次のいずれかを行います。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /system` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



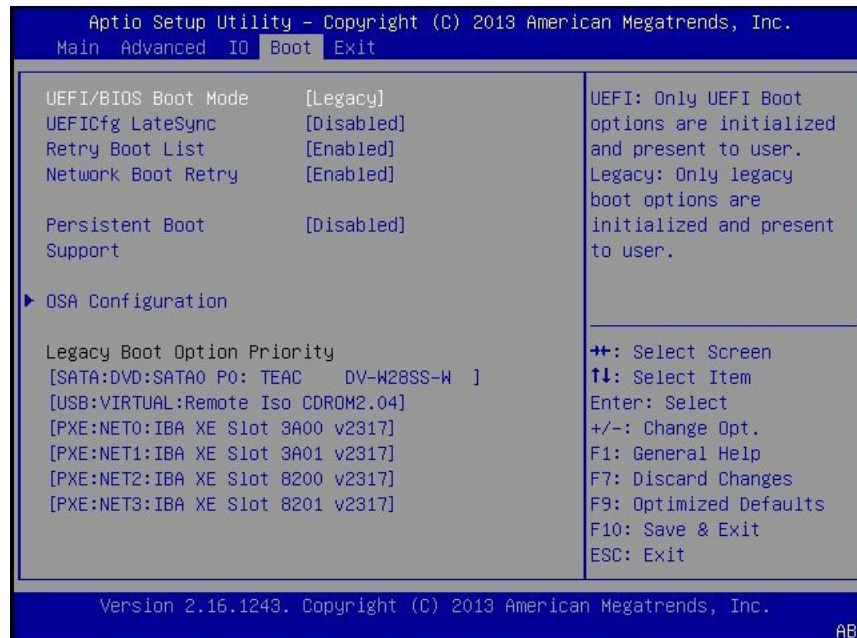
注記 - 次の手順がすぐに発生するため、F2 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. BIOS 設定ユーティリティで、矢印キーを使用して「Boot」メニューに移動します。

「Boot」メニュー画面が表示されます。「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドに現在のブートモードが表示されます。



注記 - ブート順のリストのオプションは、ストレージドライブ構成と、Persistent Boot Support 機能を有効にしているかどうかによって異なります。Persistent Boot Support についての詳細は、『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindia/docs>)を参照してください。

4. 下矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、Enter を押します。
5. 目的のブートモードを選択し、Enter を押します。
オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) を選択する必要があります。
6. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースからブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースと各ソースのセットアップ要件について説明します。

- [22 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [23 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)
- [23 ページの「リモートインストール用のブートメディアを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [22 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [22 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

リモートブートメディアの要件

リモートブートメディアを使用すると、ネットワーク経由でインストールをブートできます。インストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、PreBoot eXecution Environment (PXE) を使ってネットワーク経由で ISO イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- リモート DVD ドライブに挿入された DVD-ROM インストールメディア、または着脱可能なリモートの USB フラッシュドライブインストールメディア

- 仮想リダイレクション用に設定されたネットワーク上の場所で使用できる DVD-ROM ISO イメージ
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) 上にマウントされた DVD-ROM インストールメディアイメージ
インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs>にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。
- PXE ブート - Oracle Solaris 11 は PXE ブートをサポートしています。いったん PXE ブートが開始されると、Oracle Solaris 11 のインストールは Automated Installation (AI) インストーラを使用して実行されます。サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムの PXE ネットワークインストールを実行する手順については、[32 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris をインストールする」](#)を参照してください。

▼ ローカルインストール用のブートメディアを設定する

1. **Oracle Solaris インストールメディアを入手します。**
インストールメディアは、次の場所でダウンロードまたは注文できます。<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/downloads/index.html>
2. **Oracle Solaris インストール DVD をサーバーに接続された DVD ドライブに挿入します。**
 - サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Oracle Solaris OS インストール DVD を挿入します。
 - サーバーに DVD ドライブがない場合は、サーバー前面または背面の外部 USB ポートの 1 つに、Oracle Solaris OS インストールメディアが格納された外付け USB DVD ドライブまたは USB フラッシュドライブを装着します。

サーバーの外部 USB ポートの場所については、『[Oracle Server X6-2L 設置ガイド](#)』の「[サーバーの機能とコンポーネント](#)」を参照してください。

▼ リモートインストール用のブートメディアを設定する

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを使用して、リモートの場所から供給されるメディアから OS をインストールするには、これらの手順を実行します。

1. OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。例:

- **DVD-ROM の場合は**、リモートシステム上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
- **DVD-ROM ISO イメージの場合は**、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに使用可能であること、またはサーバーのサービスプロセッサ (SP) にマウントされていることを確認します。

インストールイメージをサーバー SP にマウントする手順については、<http://www.oracle.com/goto/ilom/docs> にある『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』を参照してください。または、Oracle ILOM の「Remote Control」->「Remote Device」Web インタフェースページの「More Details」リンクを参照してください。

2. サーバーの Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、リモートシステムで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションを起動します。

手順については、[15 ページの「リモートコンソールを設定する」](#)を参照してください。

3. リモートコンソールで、次を実行します。

- a. 「KVMS」をクリックし、KVMS ドロップダウンメニューを表示します。
- b. 「Storage」をクリックします。
「Storage Devices」ダイアログが表示されます。
- c. 「Storage Devices」デバイスで、「Add」をクリックします。
「Add Storage Device」ダイアログが表示されます。
- d. ISO イメージを参照して選択し、「Select」をクリックします。
「Storage Devices」画面が表示され、ISO イメージの一覧が表示されます。
- e. ISO イメージを選択し、「Connect」をクリックします。
ISO イメージがリモートコンソールにマウントされ、OS インストールの実行に使用できるようになります。

インストール先の選択

Oracle Solaris OS をブートする前に、インストール先を選択して準備します。

- [25 ページの「インストール先のオプション」](#)

- 25 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する」
- 26 ページの「ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する」

インストール先のオプション

(サーバーのフロントパネルにある) オプションの NVM Express (NVMe) ストレージドライブを除き、サーバーに取り付けられたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。ハードディスクドライブ (HDD)、ソリッドステートドライブ (SSD)、および RAID ボリュームは、Oracle Solaris OS の有効なインストール先です。

注記 - NVMe ドライブは、Oracle Solaris オペレーティングシステムを実行しているサーバーでサポートされています。ただし、NVMe ドライブは、オペレーティングシステムのブートをサポートしないため、インストール先として使用しないようにしてください。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けのファイバチャネルストレージデバイスにインストールすることを選択できます。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD、SSD、または RAID ボリューム) をインストール先として設定する

1. ターゲットドライブ (HDD または SSD) が正しく取り付けられていて、電源が入っていることを確認します。
ハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) の取り付けおよび電源投入の詳細は、『Oracle Server X6-2L サービスマニュアル』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
2. ターゲットドライブが環境に合わせて構成されていることを確認します。
デフォルトでは、サーバー上の各物理ドライブは論理 RAID 0 ボリュームとして構成されます。代替構成を実装するには、次のリソースを参照してください。
 - 『Oracle Server X6-2L 設置ガイド』の「オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成」
 - 『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86admindiaq/docs>)

▼ ファイバチャネル Storage Area Network デバイスをインストール先として設定する

1. ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) がサーバーに正しく取り付けられていることを確認します。

PCIe HBA オプションの取り付けの詳細は、『[Oracle Server X6-2L サービスマニュアル](#)』の「[PCIe カード \(CRU\) の保守](#)」を参照してください。

2. **Storage Area Network (SAN)** が取り付けられ、かつサーバー上のホストでストレージデバイスが認識されるように構成されていることを確認します。

手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

RAID の構成

RAID (Redundant Array of Independent Disks) 構成でサーバーストレージドライブを構成する場合は、Oracle Solaris OS をインストールする前に RAID ボリュームを構成しておく必要があります。RAID を構成する方法については、『[Oracle Server X6-2L 設置ガイド](#)』の「[オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成](#)」を参照してください。

関連情報

- 『Oracle X6 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86admindiag/docs>)

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムを サーバー にインストールする方法について説明します。

説明	リンク
プリインストール要件。	27 ページの「開始する前に」
メディアを使用した Oracle Solaris オペレーティングシステムの単一サーバーへのインストール。	28 ページの「単一システムへの Oracle Solaris の手動インストール」
インストール後のタスクの実行。	36 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール後のタスク」

関連情報

- [9 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて」](#)
- [16 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)
- [26 ページの「RAID の構成」](#)

開始する前に

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーのストレージドライブ上に RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID を構成する方法については、『[Oracle Server X6-2L 設置ガイド](#)』の「[オペレーティングシステムインストールのためのストレージドライブの構成](#)」を参照してください。

注記 - Oracle Storage 12 Gb/s SAS PCIe RAID 内蔵 HBA を使用してストレージドライブを管理している場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に RAID ボリュームを作成してそれをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

- インストールを実行する前に、コンソール表示オプションを選択して設定します。このオプションおよび設定手順の詳細は、[13 ページの「コンソール用ディスプレイの選択」](#)を参照してください。
- UEFI ファームウェアの設定が最適なデフォルト値に設定されていることを確認します。UEFI ファームウェアの設定を確認し、必要に応じてそれを設定する方法については、[16 ページの「UEFI の最適なデフォルト値を確認する」](#)を参照してください。
- UEFI ファームウェアを目的のブートモード (レガシー BIOS または UEFI) に設定します。UEFI ブートモードを設定する方法については、[19 ページの「ブートモードを設定する」](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、ブートメディアオプションを選択して設定します。このオプションおよび設定手順の詳細は、[22 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- このインストール手順を開始する前に、インストール先オプションとして使用するストレージドライブを決定して設定します。このオプションおよび設定手順の詳細は、[24 ページの「インストール先の選択」](#)を参照してください。
- このセクションで説明する手順と一緒に使用できるように、Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) のドキュメントを集めます。Oracle Solaris 11.3 OS のドキュメントは、次の場所で入手可能です。

http://docs.oracle.com/cd/E53394_01/index.html

単一システムへの Oracle Solaris の手動インストール

このセクションでは、Oracle Solaris 11.3 オペレーティングシステムのインストールのガイドラインを示します。

- [29 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Solaris をインストールする」](#)
- [32 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris をインストールする」](#)
- [36 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール後のタスク」](#)

関連情報

- [9 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて」](#)

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して Oracle Solaris をインストールする

この手順では、ローカルまたはリモートメディアから Oracle Solaris 11.3 オペレーティングシステム (OS) のインストールをブートする方法を説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Solaris 11.3 (SRU5 適用済み) の DVD (内蔵または外付け DVD)
- Oracle Solaris 11.3 (SRU5 適用済み) の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注記 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[32 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris をインストールする」](#)の手順を参照してください。

1. インストールメディアがブートできることを確認します。

- **配布 DVD の場合**、Oracle Solaris 11.3 (SRU5 適用済み) の DVD をローカルまたはリモートの DVD ドライブに挿入します。
- **ISO イメージの場合**、Oracle Solaris 11.3 (SRU5 適用済み) の ISO イメージが使用可能で、KVMS メニューを使用して ISO イメージが Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションにマウントされていることを確認します。

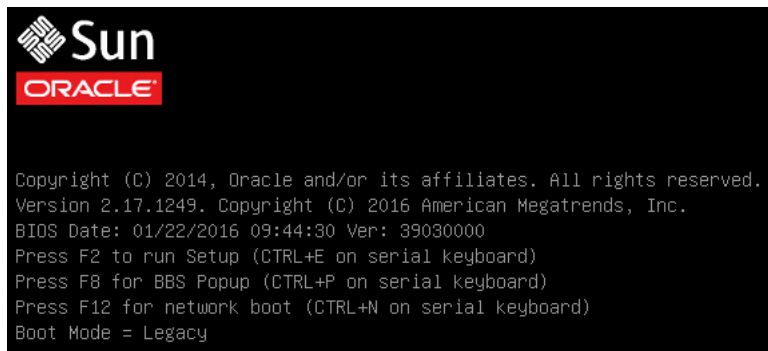
インストールメディアの設定方法の詳細は、[22 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

たとえば、サーバーをリセットするには、次のいずれかを行います。

- **ローカルサーバーで**、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
- **Oracle ILOM CLI で** `reset /System` と入力します

サーバーがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



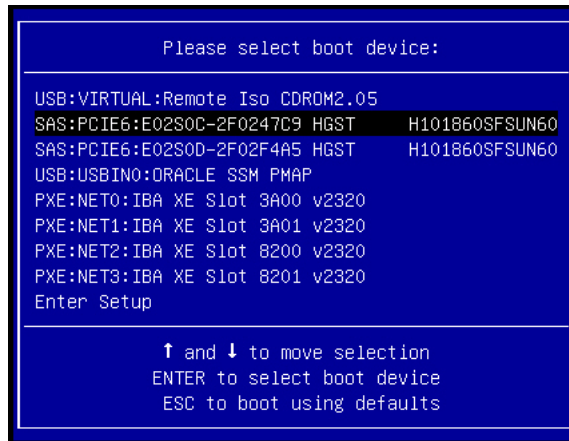
注記 - 次の手順がすぐに発生するため、F8 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS 画面で F8 キーを押して、Oracle Solaris OS インストールの一時ブートデバイスを指定します。

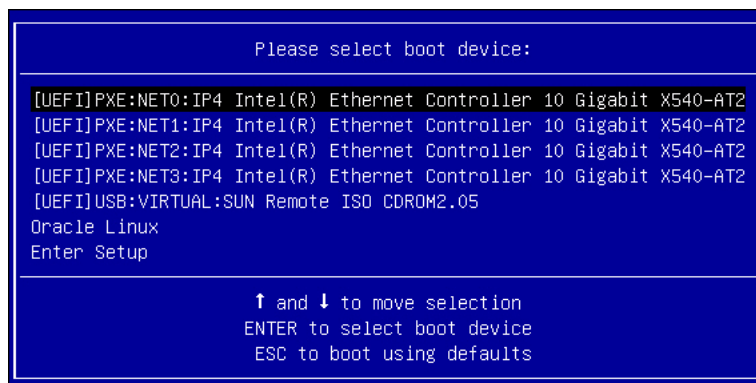
「[Boot Pop Up Menu Selected]」が BIOS 画面の下部に表示されます。

次に、「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。表示される画面は、UEFI/BIOS ブートモードがレガシー BIOS または UEFI のどちらに構成されているかによって異なります。

- Legacy BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - 「Please Select Boot Device」メニューは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラと、PCIe ネットワークカードなどのその他のハードウェアの種類によって異なります。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、使用対象として選択した Solaris OS メディアのインストール方法と UEFI/BIOS ブートモードに応じたメニュー項目を選択し、Enter を押します。

例:

- レガシー BIOS ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスアプリケーションの方法を使用することを選択した場合、レガシー BIOS ブートモードバージョンの「Please Select Boot Device」メニュー画面で「SATA:DVD:SATA0 P0: TEAC DV-W28SS-W」を選択します。
- UEFI ブートモードで Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラスの配布方法を使用することを選択した場合、UEFI ブートモードバージョンの「Please Select Boot Device」メニュー画面で「[UEFI]USB:VIRTUAL:Remote Iso CDR0M2.04」を選択します。

「GRUB」メニューが表示されます。

5. 画面上のプロンプトに従って **Oracle Solaris** のインストールを完了します。

Oracle Solaris 11.3 のインストール (SRU5 適用済み) を完了する手順については、http://docs.oracle.com/cd/E53394_01/index.html にある Oracle Solaris 11.3 のインストールドキュメントを参照してください。

関連情報

- [32 ページの「PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris をインストールする」](#)

▼ PXE ネットワークブートを使用して Oracle Solaris をインストールする

次の手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle Solaris 11.3 (SRU5 適用済み) オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

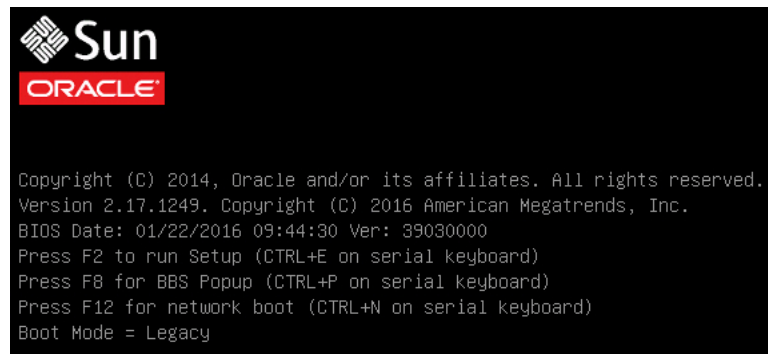
Oracle Solaris 11.3 (SRU5 適用済み) の PXE ブートインストールを開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- PXE を使用して、ネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、Automated Installation (AI) イメージインストールサーバーが設定されていて、ネットワーク経由でサーバーからアクセス可能であることを確認してください。
- AI サーバーでインストールクライアントの MAC アドレスが必要な場合は、Oracle ILOM SP に root としてログインして、次を入力することで、システムの MAC アドレスを取得できます。

```
-> show /SYS/MB/NET0 fru_macaddress
/SYS/MB/NET0
Properties:
    fru_macaddress = 00:21:28:e7:77:24
```

1. PXE ネットワーク環境が適切に設定されていることを確認します。
2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。
たとえば、サーバーをリセットするには、次のいずれかを行います。
 - ローカルサーバーで、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒間押し、サーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
 - Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」->「Power Control」をクリックし、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択してから、「Save」をクリックします。
 - Oracle ILOM CLI で `reset /System` と入力します

システムがブートプロセスを開始し、BIOS 画面が表示されます。



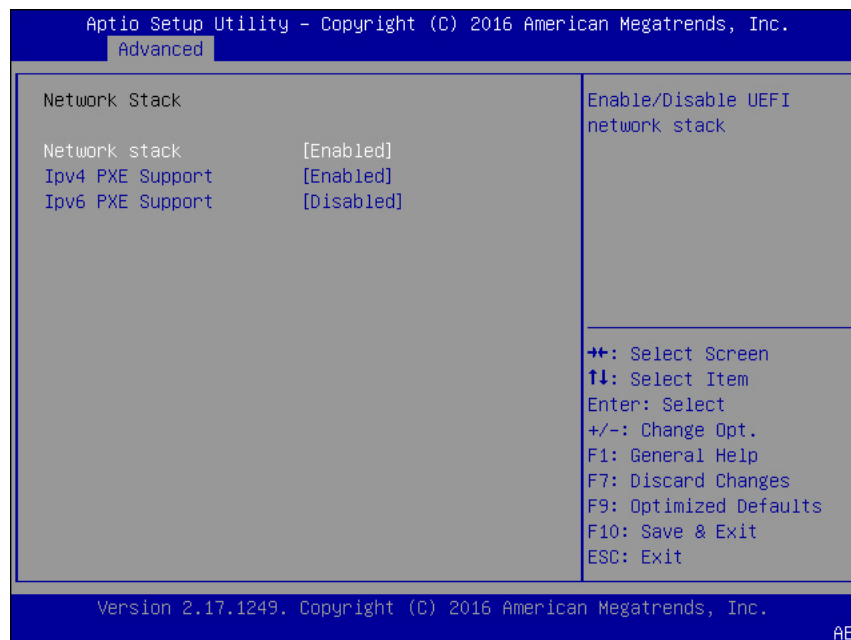
注記 - 次の手順がすぐに発生するため、F2 キーを押せるようにしておきます。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. PXE ブートが有効になっていることを確認するために、次の手順を実行します。

注記 - PXE ブートはデフォルトで有効になっていますが、この手順では無効になっている場合に備えて、PXE ブートが有効になっていることを確認します。PXE ブートが有効になっていることを確認したら、以降の PXE ブートではこの手順を省略できます。

- a. F2 キーを押して、BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。

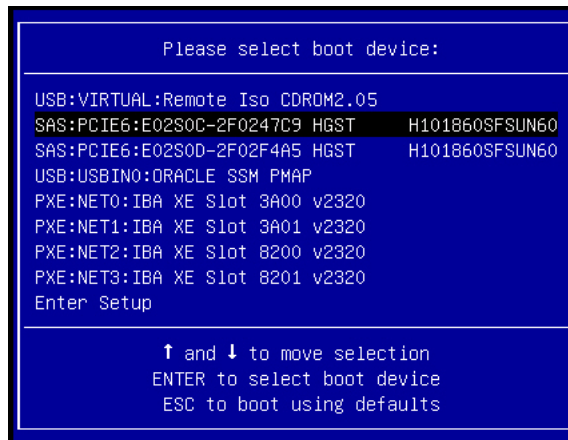
- b. 上部のメニューバーで「Advanced」を選択します。
BIOS 設定ユーティリティの「Advanced」画面が表示されます。
- c. 使用可能なオプションのリストから「Network Stack」を選択します。
BIOS 設定ユーティリティの「Network Stack」画面が表示されます。



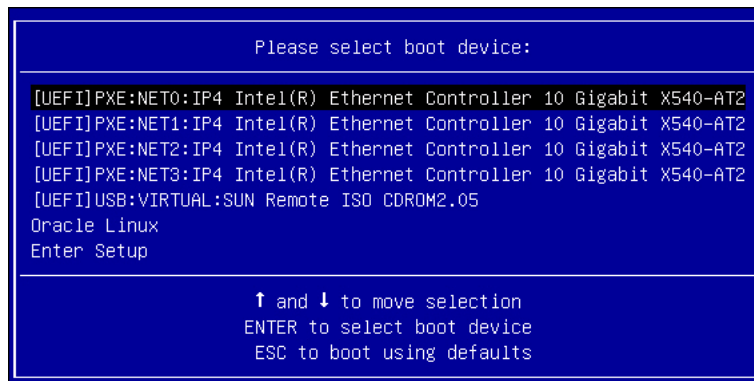
- d. 必要に応じて、該当する PXE サポート設定 (IPv4 または IPv6 のいずれか) を「Enabled」に設定します。
 - e. 変更内容を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。
- これにより、サーバーがリセットされます。リセット後、再度、BIOS 画面が表示されます。
4. BIOS 画面で、F8 キーを押して一時ブートデバイスを指定するか、F12 キーを押してネットワークブート (PXE) します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。表示される画面は、BIOS を Legacy BIOS ブートモードに構成したか、UEFI ブートモードに構成したかに応じて異なります。

- Legacy BIOS ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



- UEFI ブートモードの場合、次のような画面が表示されます。



注記 - 「Please Select Boot Device」メニューオプションは、サーバーに取り付けられているディスクコントローラと、PCIe ネットワークカードなどのその他のハードウェアの種類によって異なります。

5. 「Please Select Boot Device」メニューで、適切な PXE ブートポートを選択し、Enter を押します。
PXE ブートポートは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された物理ネットワークポートです。
「GRUB」メニューが表示されます。
6. 画面に表示されるプロンプトに従って PXE インストールを完了します。
PXE インストールを完了する手順については、http://docs.oracle.com/cd/E53394_01/index.html にある『Oracle Solaris 11.3 カスタムインストールイメージの作成』を参照してください。
7. 36 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール後のタスク」のセクションに進んで、インストール後のタスクを実行します。

関連情報

- 36 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール後のタスク」

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール後のタスク

Oracle Solaris のインストールを完了したら、次に示すインストール後のタスクを確認し、使用しているシステムで該当するタスクを必要に応じて実行します。

- 36 ページの「Oracle Solaris の更新」
- 37 ページの「Oracle Solaris リソースを管理する」

Oracle Solaris の更新

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールとリブートを行なったあと、更新を利用できるかどうかを確認する方法、およびそれらをインストールする方法の手順を Oracle Solaris ドキュメントで確認します。次の Web サイトで Oracle Solaris 11.3 のドキュメントを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E53394_01/index.html

Oracle Solaris のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要に応じて、最新の更新を使用して Oracle Solaris オペ

レーティングシステムを更新します。最新バージョンのオペレーティングシステムをダウンロードするには、次の場所にある Oracle Software Delivery Cloud の Web サイトにアクセスしてください。

<https://edelivery.oracle.com>

Oracle Solaris リソースを管理する

Oracle Solaris リソースの構成、アクセス、および管理を行う方法については、次の場所にある Oracle Solaris 11.3 ドキュメントの Web サイトを参照してください。

http://docs.oracle.com/cd/E53394_01/index.html

ネットワークインタフェースの構成

このセクションでは、サーバー上のネットワークコネクタについて説明します。

- [39 ページの「NIC コネクタ」](#)

NIC コネクタ

ネットワークインタフェースカードのコネクタには、次のようなラベルが貼付されています。

表 1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
NET0	第 1 インタフェース (ixgbe0)
NET1	第 2 インタフェース (ixgbe1)
NET2	第 3 インタフェース (ixgbe2)
NET3	第 4 インタフェース (ixgbe3)

注記 - Ethernet ポート NET 2 および NET 3 は、シングルプロセッサシステムでは機能しません。

索引

あ

- 一時ブートデバイス
 - 指定, 30
- インストール
 - PXE ネットワークブートを使用, 32
 - インストールメディアを使用, 22
 - 概要, 9
 - 前提条件, 27
 - タスクマップ, 9
- インストールオプション
 - 単一のサーバー, 11
 - 複数のサーバー, 11
- インストール後のタスク, 36
- インストール先
 - オプション, 25
 - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 26
 - ローカルストレージドライブ, 25
- インストールのタスクマップ, 9
- インストール方法
 - 手動, 12
 - 単一サーバー、PXE イメージ, 12
 - 単一サーバー、リモート, 12
 - 単一サーバー、ローカル, 12
 - ブートメディアオプション, 22
- オペレーティングシステム
 - インストールオプション, 11
 - サポートされるバージョン, 10
- オペレーティングシステムのインストールの概要, 9

か

- 構成
 - ネットワークインタフェースカード, 39

コンソール

- 表示オプションの選択, 13
- への接続, 14
- リモート, 15
- ローカル, 14

さ

- サーバーの電源
 - 電源投入, 20
 - リセット, 20
- サーバーの電源投入, 29
- サーバーの電源リセット, 29
- サーバーの IP アドレス, 15
- サポートされるオペレーティングシステム, 10
- シリアル管理ポート
 - ボーレート, 14
 - ホストシリアルポートへの接続, 14
- ソフトウェアの更新
 - Oracle Solaris, 36

た

- ドキュメント
 - Oracle ILOM 用, 15
 - Oracle Solaris 用, 28, 37
 - サーバープラットフォーム用, 7
 - フィードバック, 7

な

- ネットワークインタフェースカード
 - 構成, 39

ラベル付けと種類, 39

は

ハードウェア互換リスト, 11

フィードバック

ドキュメント用, 7

ブートデバイス、一時, 30

ブートデバイスメニュー

選択, 31

ブートメディアオプション

ブートプロパティの変更, 16

リモートブートメディアの要件, 22

ローカルブートメディアの要件, 22

ブートメディアのインストール, 22

ブートモード

設定, 19

プロダクトノート, 11

ら

リモートインストール

ブートメディアの設定, 22, 23

リモートコンソール

設定, 15

リモートブートメディア

設定, 23

要件, 22

ローカルインストール

設定, 14

ブートメディアの設定, 23

ローカルコンソール

設定, 14

ローカルブートメディア

設定, 23

要件, 22

B

BIOS

最適なデフォルト設定の確認, 16

ブートモードの設定, 19

編集と表示の手順, 16

BIOS 設定ユーティリティー, 17, 18

I

ISO イメージ

Oracle Solaris OS, 29

ISO イメージからのブート, 23

O

Oracle ILOM リモートシステムコンソールプラス

OS のインストールに使用, 14

設定, 15

Oracle Solaris

ソフトウェアの更新, 36

ドキュメント, 37

ネットワークインタフェースの構成, 39

Oracle Solaris OS のインストール

PXE ベースネットワークからリモートメディアを使用, 32

PXE を使用, 32

インストール後のタスク, 36

概要, 9

メディアを使用して単一システムに, 28

ローカルまたはリモートメディアを使用, 29, 29

Oracle Solaris ドキュメントの Web サイト, 28

P

PXE インストール

Oracle Solaris OS, 32

R

RAID

構成, 26, 27

U

UEFI

最適なデフォルト設定の確認, 16

設定を編集し表示する手順, 17

ブートモードの設定, 19